

扶桑社版「新しい歴史教科書をつくる会」の 歴史教科書の採択に抗議し、採択の撤回を要求する

本年8月12日、東京都杉並区教育委員会は、2010年4月から公立中学校で使用する教科書として、「新しい歴史教科書をつくる会」（つくる会）編集の扶桑社版の歴史教科書を、4対1の賛成多数で採択した。

「つくる会」の歴史教科書は、天皇を中心に日本の歴史を描き、日本の植民地支配や侵略戦争を正当化・美化し、日本国憲法の理念である基本的人権や恒久平和、国民主権を敵視し、軍事力を重視し、かつ、現実の問題に立ち向かわない無批判で受動的な人間を生み出そうとするものである。一言で言えば、「戦争をする国」を担う国民を育成しようとするものである。

杉並区は、2005年にも「つくる会」歴史教科書を採択しているが、その際に市民からの強い反対があり、教育委員会内部でも激しい議論がなされた。

その後、杉並区教育委員会では、「つくる会」歴史教科書採択に不支持を表明していた委員長を含む2人の委員が交代し、2005年時に委員として扶桑社版を支持した東洋大教授の大蔵雄之助氏が委員長に就任した。

すなわち、同教育委員会は、「つくる会」歴史教科書の採択に反対する広範な市民の声に耳を傾けることなく、着々と準備を進めて今回の再度の採択に至ったのである。このような同教育委員会の教科書採択が、子どもと日本の現在と将来に重大な問題を引き起こし、国内はもちろん、アジア近隣諸国からも厳しい批判を受けることは確実である。

われわれ自由法曹団本部及び東京支部は、同教育委員会が「つくる会」扶桑社版歴史教科書を採択した暴挙に対し、怒りをもって抗議し、ただちにこの採択を撤回するとともにあらためて十分な調査研究に基づく採択をやり直すことを強く要求するものである。

2009年8月17日

自由法曹団
団長 松井繁明
自由法曹団 東京支部
支部長 島田修一